

都島だより

発行責任者

信原 利行

〒175-0092
東京都板橋区赤塚5-31-9
TEL 03-5383-2428一般社団法人浪速工業会
都島クラブ会報

2016年(平成28年)7月 第53号

事務局 馬江 治喜

〒234-0056
横浜市港南区野庭町696-6
TEL045-841-8885

E-mail har1942umae@iris.ocn.ne.jp

題字デザイン A28岡田宏三

NEWS53号

一般社団法人浪速工業会・都島クラブ・現在会員数 ◆ 合計497名

◆M・機械101、ME・機械電気26名◆A・建築87名◆E・電気・電子工学164名◆C・土木・都市工学40名◆C I・工業化学・理数55名◆L・普通12名◆工専12名

平成二十八年
浪速工業会・都島クラブ
代表ご挨拶

A57 信原 利行

天候不順の梅雨空の日が続きますが、この号がお手元に届きます頃には盛夏となっていることと思います。浪速工業会都島クラブの会員の皆様におかれましては益々ご健勝の事とお喜び申し上げます。また平素は会の運営に数々のご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。四月の総会におきまして、本年度の都島クラブ代表を仰せつかりました建築科・昭和57卒の信原 利行と申します。前年度の石川代表より引き継ぎ、若輩者ではございますが努力して参りますので何卒よろしくお願いいたします。

私がこの会の前身である関東浪速工業会の幹事としての活動に参加させていただいたのは、今から22年前の1994年の事で年齢は30歳の頃でありました。まず会に入って感じたのは同じ科の先輩は元より他科の諸先輩の方々からお声掛けを頂き、時には一献酌み交わしながら、自分が大阪を離れている寂しさや将来の不安みたいなものを取り払って頂けたことが印象に深いです。以来20年間、幹事会では主にMニュースの編集に携わってきました。私ことではございますが、昨今、アジアが主ですが海外で仕事をする機会があり、その時に少し離れた位置から日本を見たとき、日本の技術力、信頼性を改めて感じます。本会には、その技術の源流を支える諸先輩が多く、次の世代にそれを伝えることが出来

ればと思っております。そこで「都島クラブ技術を語る夕べ」と題したミーティングサロン(略称MMS)を本年度より開催したいと考えました。詳しくは別にご案内いたしますので、会員の皆様に於かれましては是非ともご参加下さるよう重ねてお願い申し上げます。

【都島クラブ技術を語る夕べ】
開催のご案内MIYAKOJIMA
CLUB
MEETING
SALON
MMS

MMS実行委員会

第1回「都島クラブ技術を語る夕べ」と題したミーティングサロン(略称MMS)を左記の通り開催致します。先輩や後輩が技術を題材としたこれまでの経験、伝承したいことを語り、後輩においては各分野での現状報告や最新の状況を先輩に伝えることを目的とし会員間の親睦を図ります。ミーティング終了後は付近での懇親会を予定しています。皆様のご参加をお待ちしています。

講師 E36 石垣 英明氏
内容 発展途上国に対する国際協力の体験談あれこれ

開催日 9月16日(金) 19時~20時30分
開催場所 都内某所会議スペース(検討中)

会費 2000円(懇親会費別)

申込締切 8月31日(水)

申込方法 事務局・馬江まで科、卒年、氏名を電話、FAX又はEメールにて御申込み下さい。

TEL・FAX 045-841-8885

Eメール har1942umae@iris.ocn.ne.jp

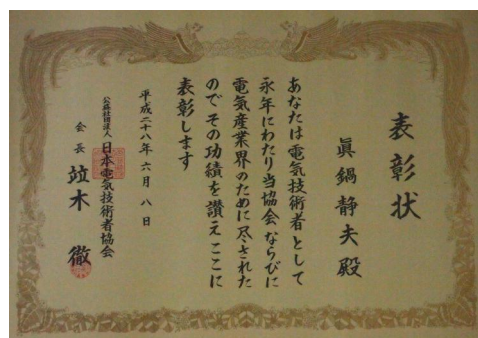
眞鍋静夫氏
永年の功勞により受賞

祝・受賞

電気科昭和20年御卒業の眞鍋静夫様が、本年6月8日東京如水会館にて電気技術者として永年の功勞に對して、公益社団法人・日本電気技術者協会より表彰されました。眞鍋様は年間わずかの技術者しか合格出来ない「電気事業主任技術者資格検定・第壹種」の資格をお持ちで、電気設備の設計・施工に多くの業績を挙げ且つ後輩の指導に尽力されました。心よりお祝い申し上げます。



総会で乾杯挨拶をする眞鍋氏



日本電気技術者協会・表彰状

ミャンマー国の 仏蹟参拝旅行に参加して

E 36 石垣 英明



今年1月23日(土)から29日(金)まで七日間、ミャンマー(ビルマ)を旅しました。築地本願寺が募集した仏蹟参拝旅行で、参加者は27名、日本人墓地で戦死者を慰霊するため布袍・輪袈裟・念珠・聖典を持参した。ミャンマーで戦死した日本人は13万4千人といわれている。世界的にも貴重な仏教建築群があるバガンを訪れ、多くの戦死者がでたエーヤワディー河(イラワジ河)のサンセットクルージングを楽しみながら、夕陽に沈む河に花輪をなげ戦没者を弔ったことが印象に残っている。インド、中国、ラオス、タイと国境を接し、古来より仏教に深く帰依し、五戒を守って慎ましく暮らす人々の暮らしが息づいている。大平原に無数に林立するパゴダを筆頭に、歴史的な建造物もほとんどが仏教関連のもの、肥沃な大地をめぐる激しい独立の戦いの歴史の中でも常に人々の信仰を集め、今も色あせることなく輝き続けている金色に輝く壮大な寺院に圧倒されました。面積は日本の約1.8倍で人口は5141万人、首都はネーピドーで2006年10月にヤンゴンから遷都、国民の85%は仏教徒で、日本の大乘仏教とは異なり、戒律の厳しい上座部仏教です。男子は10、12歳になると1週間ほど仏門にはいり出家するのが習わしになっている。成田から空路8時間でヤンゴン着、ホテルで2

泊、朝4時半に起きてヤンゴンから空路北へ1時間20分でバガン、バガンで1泊後、早朝にバガンからミャンマー第2の都市マンダレーに空路30分で到着、マンダレー1泊後、空路ヤンゴンに戻り、1泊してヤンゴンから成田にもどるという強行軍でした。帰りの便で体調を崩し、寒い日本に戻ると疲れで寝込んでしまった。東京とヤンゴンの温度差は15度で、ヤンゴンでは日中半袖で過ごせます。仏教寺院に参拝するときは、靴と靴下をぬぎ裸足になります。長い間、軍による政治が続き、世界の国との交流も少なかったミャンマーは、最近行われた選挙の結果アウン・サン・スー・チーさん率いる新しい政府が生まれ、国が大きく変わろうとしています。ヤンゴンの市内は車で交通渋滞しています。インフラ整備が遅れています。今後、貿易が増え経済発展が期待されている発展途上国です。比較的味が濃いミャンマー料理ですが結構おいしいです。もう一度行きたいと思う国です。



関東E36会

E 36 馬江 治喜

月日の経つのは早いもので、もう20年以上前になるとと思いますが、電気科36年卒業の関東在住者で集まろうかという事で関東E36会(いさむかい)と言う名称で年に1回か2回程度集まってバカ話をしておりまして。しかし人生って無常ですね・・・昨年7月に細川 俊君が亡くなり、その追悼集会を昨年10月に行いました。今年は都工卒業55周年という事でこの5月に渋谷のカラオケ店で久しぶりに開催致しました。しかし今まで集まっていたメンバーで安部君、三木君が体調不良という事で欠席しました。これも仕方ない事かと寂しく思う次第です。一日も早く回復して又一緒に会いたいと思います。他のメンバーの赤尾君、石垣君、牛窪君、笹治君、竹村君と馬江の6名が集まり4時間アルコールを飲みながらバカ話ばかりをして終了しました。カラオケ店へ入ってカラオケをしないで出たのは初めてでした。また今年は55周年を記念し東西合同懇親会という企画もあり元気な内に同期の友好を温めたく思います。



関東E36会



有情・無常の道 シルクロードを往く

A 27 田中 瑛也

【その3】



【Mニュース52号より続き】
●高貴で妖艶な仏教壁画 キジル千仏洞

【写真1】

キジル千仏洞への道は、険しい塩水溪谷、自然の風雪が岩肌に切り刻み彫られた堅い岩山の合間の切り通しを通過する。硬質の岩は、かつて中部トルコ、エルズルムの山間を車で走ったことを追憶する。この山間の岩も同じ黒曜石によつて層が形成されているからである。石器時代、鉄が未だ使用されておらず石を切り出すには、石の中で最も硬質な黒曜石を用いて石を削り、磨いて石器や石臼を作り出した。人類生成の一コマを演じた貴重な石である。塩水流れる溪谷、荒々しい黒曜石の岩肌との合間を小一時間バスは走る。やがて前方に視界が開け、キジル千仏洞との仏画との対面が待っている。

入り口の広場の中心に鳩摩羅什の半伽像が据えられ荘厳な雰囲気漂わす。鳩摩羅什(344~413)はクチャで生誕し、父はインド人、母は亀慈王(当時この地を支配した王)の妹、亀慈国で青年時代を過ごし、300巻以上の経典をサンスクリット語から漢語に翻訳しこのクチャを小乗仏教の信仰から大乘仏教への信仰に発展させた功績を遂げた人で今日の東アジアの精神史上語る上で、重要な人である。粗々しい山の斜面に築かれたキジル千仏洞は、敦煌にあるベゼクリク千仏洞に比べて規模は小さいが、当地は敦煌に比べてより空気が乾燥している影響で、千仏洞内部の仏画は、西欧の研究者達によつて剥ぎ取られている画面はあるが、遺された画面は鮮明であるとの評を聞く。この千仏洞には237の窟が存在し、そのうち87窟に壁画が遺る。訪れた窟は先ず第8

窟、(7世紀) 龜慈国の人をモデルにして男女の飛天を描いた画。日本の正倉院の琵琶も描かれている。豊富な女体のまろやかな曲線は、東洋画の屹立性が表現され、ギリシャの絵画に見られない独自の画である。(前世の故事) 第17窟、(6世紀) 菩薩天井窟としてその名を知られ、インド風の香りが充滿し、釈迦如来說法図を中心に釈迦の生存中に施した行が描かれている。(本生故事) 第38窟、(4世紀) 楽天窟男女の樂師が、琵琶、横笛、笙を奏で仏の說法図は金箔が剥がされているが、想像で描いた海の怪物等が有名(本生故事) 第27窟(7世紀) 天井が基盤の目蓮の花が咲いている様に描かれている。空間に安置されている仏像の廻りを三回廻り礼拝する。このことで仏に帰依したことを意味するのは、丁度仏教經典を転読してすべてお経唱えたとする仏教の型式との共通することを認識した。第34窟(5世紀) 僧侶が修行する僧坊窟であったが、壁には四弦の琵琶を持つ飛天、天井画に白鳥を従えた太陽、兎と月、白蛇をくわえたガルーダ、雨神の竜、太陽神、と壮大な宇宙が描かれている。19世紀に入り地元の人々が居住したので焚き火の影響で画面が煤けているのが惜しまれる。第32窟(5世紀) それぞれの菱形の中に須彌山の画など仏教信仰の基本を説いている。第10窟(7世紀) キジルの研究に尽くした韓梁然の言葉が、刻まれているが判然しない。読解力は勿論持っていない。暗い窟から外に出る。急なや揺れる鉄骨階段を下を気遣いながら下りる。19世紀後半から20世紀前半にかけて、西欧の研究者によって画面を剥ぎ取られ、持ち去られた多くの仏画との対面を果たすのには、西欧主要都市の博物館巡りを果たさねばならないの思いが湧く。キジル千仏洞も敦煌の莫高窟と同じく窟内部の写真撮影は厳禁、心に仏に対する祈り、美に対する審美心を深く刻みつけて、この千仏洞に別れを告げた。



写真1・キジル千仏洞

●小乗仏教の伝道遺跡 スパシ故城【写真2】

古に城の様に堅固に構築されて、規模も大きい寺院が、故城と人々に呼ばれた。龜慈国小乗仏教の中心的大寺院跡である。クチャ河を挿んで東寺区と西寺区に敷地はまたがる。荒廢は甚だしいが、西地区の伽藍境内に入る。ガンダーラ式方形の仏塔に登る。登り道は砂利道の急な勾配滑りながら頂部に立つ。対岸の境内も見通せる絶景かなと叫びたいが、足下の土が崩れ落ちそうでそんな心理的余裕はない。このストーパを下り、大講堂の趾に入る。この建物も目干し煉瓦で築かれたので、土塊と化して崩れかけている。当時の建物は、壁を目干し煉瓦で積み上げ、屋根は木材の梁を壁から壁にわたし、茅等の軽い材で葺いて築かれた寺院が多い。この殿堂には仏像の安置された痕跡は、三つのガンが遺されていることから小乗仏教が隆盛を極めた当時この大講堂の内部空間を篤信の徒が、埋め尽くした幻影が浮かぶ。玄奘三蔵も往路トルファンからクチャに立ち寄った際、このスパシ寺に詣でた。当時は多くの僧が修行に励んだ荘

厳な寺院であったとの書も遺る。聖城南道ホータンのマリクワト遺跡に比べて、寺院であったとしての原形を少しは留めるが、はるか彼方自然と歴史の波に削りとられた寺院である。換言すれば西域都市国家はいかに乱世の世、戦乱にあけくれその結果人々の仏教への信仰が廃れ、やがて漢民族支配の大自然に人々の心も吞み込まれたかを知る。その心を癒すのは帰路通った西域諸都市の道を彩るボブラ並木の整然とした風景であった。



写真2・スパシ故城

●おわりに 有情・無常の道・シルクロード

ローマと長安とを結ぶ東西交易路シルクロードは、シルクロードの中間に興隆する諸国、例えばアレキサンダー大王の征服、大王の死後パルティア王国の建国、あるいはソグド商人の介入等で、陸のシルクロードは衰退し東西交易は海のシルクロードに変換した世界史の流れは、陸の交易路の存在を二時期過小評価する傾向があった。しかしこの道の存在でともすれば忘れられがちな、本論もしばしば触れた東アジアの

民族の精神的支柱である仏教の布教に寄与したことである。この論に関しては「シルク・ロード天山北路を往く」でのべたのでここでは割愛するが、生あるもの滅ぶ、栄枯盛衰、無常であり、有情とはこの世に生を営む人々の生き様である。今回訪れた西域地方の諸都市が、かつて大乘、小乗の異は都市毎にあるにせよ各王に仏教に深く帰依し法顕、玄奘等インドへと仏道の学びの道を進める高僧を励し、中国仏教の興隆に果たした役割大であったことは、万巻の書に著されている如きであるが、イスラム教の普及、民族間の抗争等で西域諸都市の衆生の信仰であった仏教は衰退したが、中国、朝鮮、日本と伝わり安心立命としての多くの有情の心を豊かにした。走馬燈の如く廻る輪廻の世界と同様に、現世の状況も有為転変、かつて駱駝の背に高僧がインドから經典を運んだ大地、タクマラカン沙漠は現在地下に眠る石油をくみ上げ運ぶ石油公路と化した。心を豊かにする經典、生活を豊かにする石油と精神から物質へとその主体の大きな変転を一番によく知り体験しているのは、シルクロードの大地自体であらう。【完】



写真3・航空機より望むシルクロード

春のゴルフコンペは中止



E 36 竹村 繁幸

春のゴルフコンペは4月7日野田市の紫CCにて11名の参加者で予定していましたが、未明からの強い風雨のため、急遽中止となりました。クラブ側に中止連絡の確認をとってから参加予定者に電話連絡したため、既にご自宅を出発されていた方もおられ、大変ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。秋のコンペは9月下旬の予定で、詳細が決まりしだい皆さんに御案内いたします。

青薈会

関東青薈会催しへのお誘い

A 37 森 芳信

関東青薈会の本年の催しは『陶芸会』と『保存復原なった東京駅ステーションギャラリーと旧岩崎邸庭園見学』の二本立て企画しました。陶芸会は例年通り陶芸家A46卒 柚木 寿雄氏の工房にて開催します。両企画とも他科の皆さん及び同伴者の参加も大歓迎です。奮ってご参加

①『陶芸会』



開催日時 9月10日(土) 13時より17時30分
終了後、工房にて懇親会開催
開催場所 国立市『くにたち自游工房』
会 費 7,000円(懇親会費含む)



昨年の陶芸会

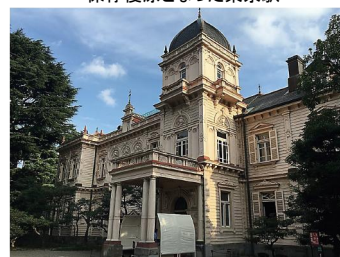


くにたち自游工房の看板

②『保存復原なった東京駅ステーションギャラリーと旧岩崎邸庭園見学』



保存復原となった東京駅



旧岩崎邸庭園と洋館



開催日時 10月15日(土) 12時30分〜18時
内 容 東京駅で集合し、2012年に完成した東京駅ステーションギャラリーを見学した後、台東区池之端にあるジョサイア・コンドル設計で明治29年に建てられた旧岩崎邸庭園と建物を見学。その後は御徒町駅付近で懇親会を開催します。(雨天決行)

会 費 交通費、入場料、懇親会費は各自負担

★申込方法 ①・②共通
申込締切 8月31日(水)
申込方法 催し名・卒科・年・氏名をFAX
又はEメールにてA37森 芳信まで
FAX 04-7184-8443
Eメール 3tree-yoshi@jcom.home.ne.jp
(集居場所等詳細はお申込み受付後ご案内します)

他科の方及び同伴者も歓迎します。
奮ってご参加下さい！



事務局よりお知らせ

平成27年度 都島クラブ総会(平成28年4月23日開催)に於いて本年度の役員が左記の通り選出・就任されました。

代表 A 57 信原 利行氏
副代表 E 35 芳仲 宏氏
会計監査 E 36 笹治 博司氏

Mニュース50号

記念冊子販売のお知らせ

事務局より

Mニュース創刊号より50号までを収録したDVDは、昨年既に作成致しておりますが、この度表紙をA28卒 岡田宏三様によるデザインで製本化したものを作成致しました。浪速工業会会員の皆様方に1冊3,000円(送料込み)にて販売する事となりました。ご希望の方は下記事務局までお申し込みください。

事務局…T234 0056

横浜市港南区野庭町696・6

TEL・FAX 045-841-8885

Eメール har1942umae@iris.ocn.ne.jp

お申し込み頂き次第、振込み口座番号をお知らせ致します。入金確認後、郵送にてお届け致します。



桂米左独演会のお知らせ

事務局より



桂米左

独演会



2016年11月13日(日) 浅草見番

上方落語会で活躍中の桂 米左(A59木村佳氏)恒例の東京独演会の日程について連絡が入りました。ご興味のある方は、事務局までお問い合わせください。お問い合わせをいただいた方には決定後に詳細案内をさせていただきます。

開催日 11月13日(日) 14時開演
開催場所 浅草見番(台東区浅草3-33-5)
会 費 未 定

お問い合わせは 事務局・馬江まで 卒年、氏名、参加予定人数を電話、FAX又はEメールにてお問い合わせ下さい。
TEL・FAX 045-841-8885
Eメール har1942umae@iris.ocn.ne.jp

計報

M20年卒 坂田 勝利氏 2015年
M27年卒 川島 一男氏 2016年
E27年卒 千代山 和民氏 2015年10月1日
A28年卒 坂田 義雄氏 2016年2月29日
E43年卒 山口 修一氏 2015年7月30日

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

次号の
Mニュースは平成29年1月
発行予定です。

皆様の原稿をお待ちしています！
事務局までお送り下さい。